

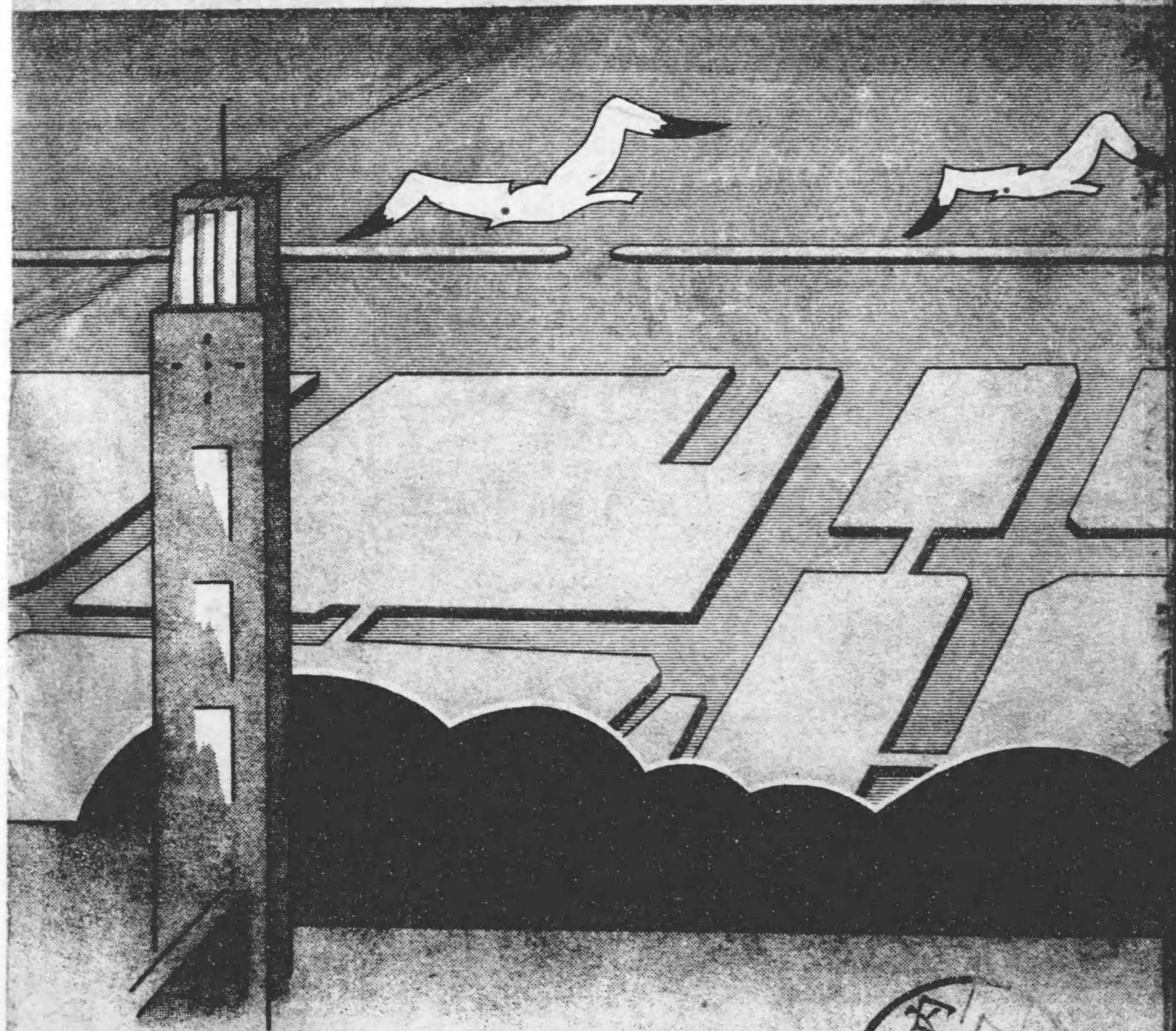
川崎市
臨港地帯概観

特 256

01

26

55

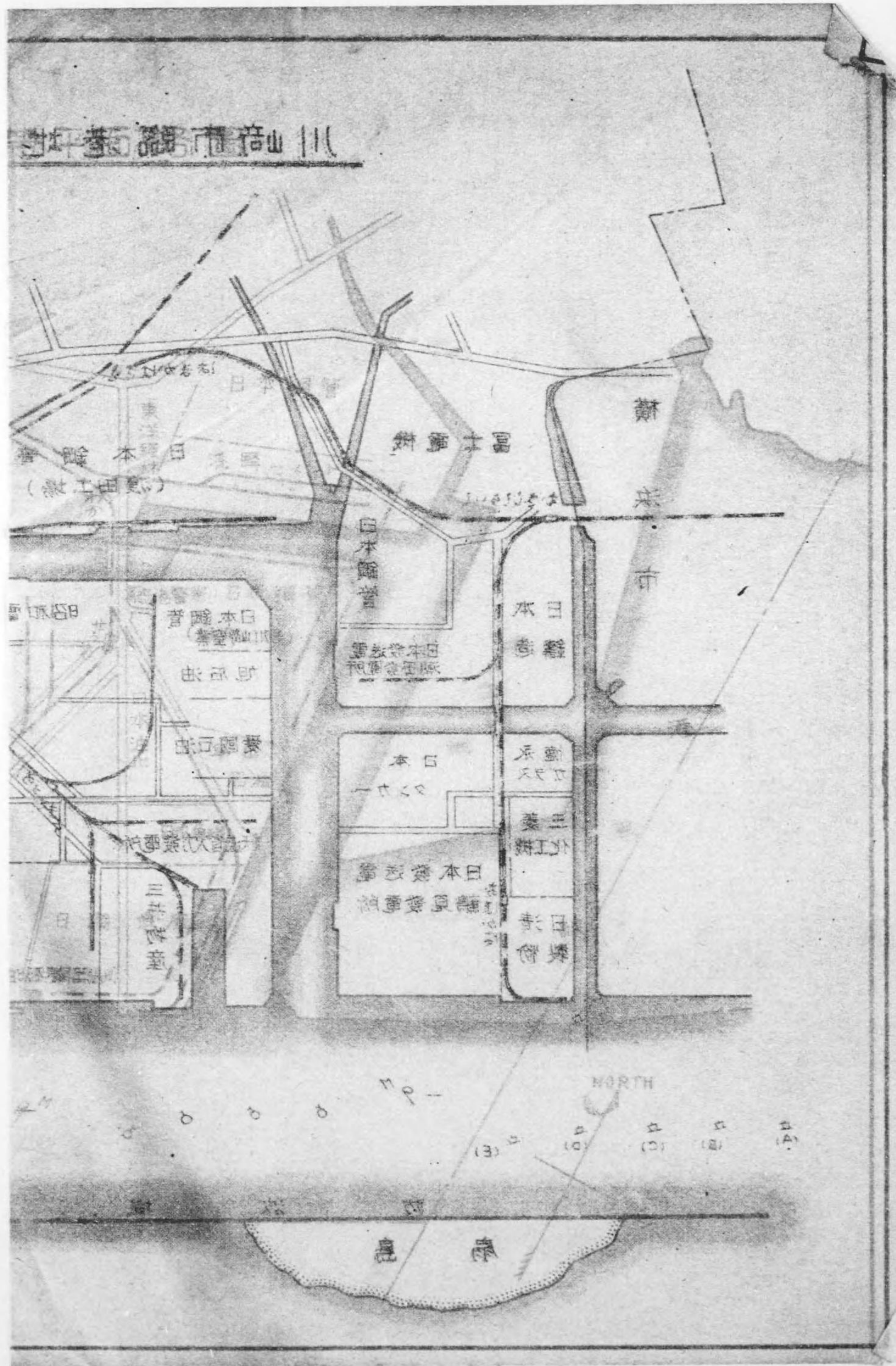


工場港湾課

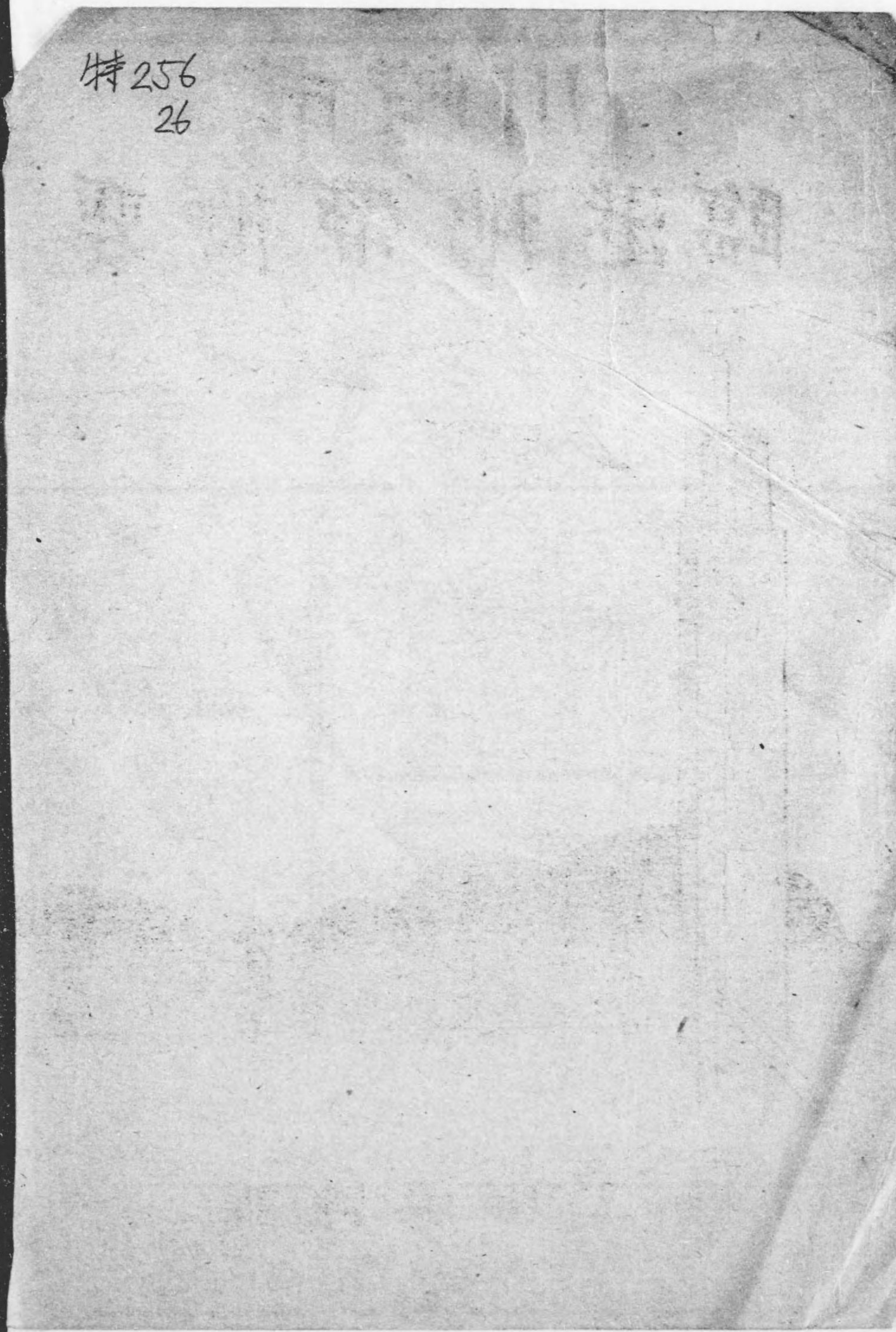


始



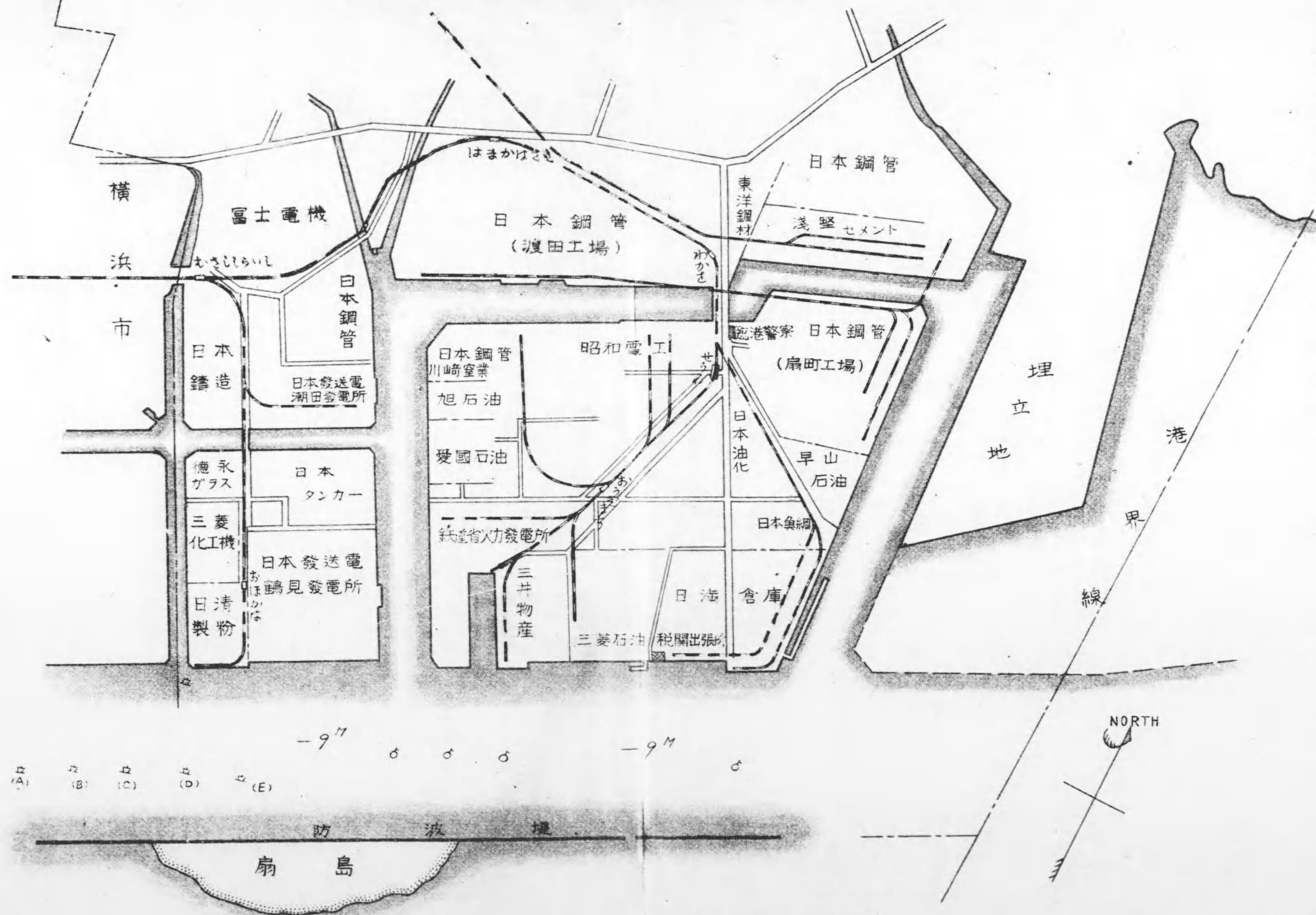


特 256
26

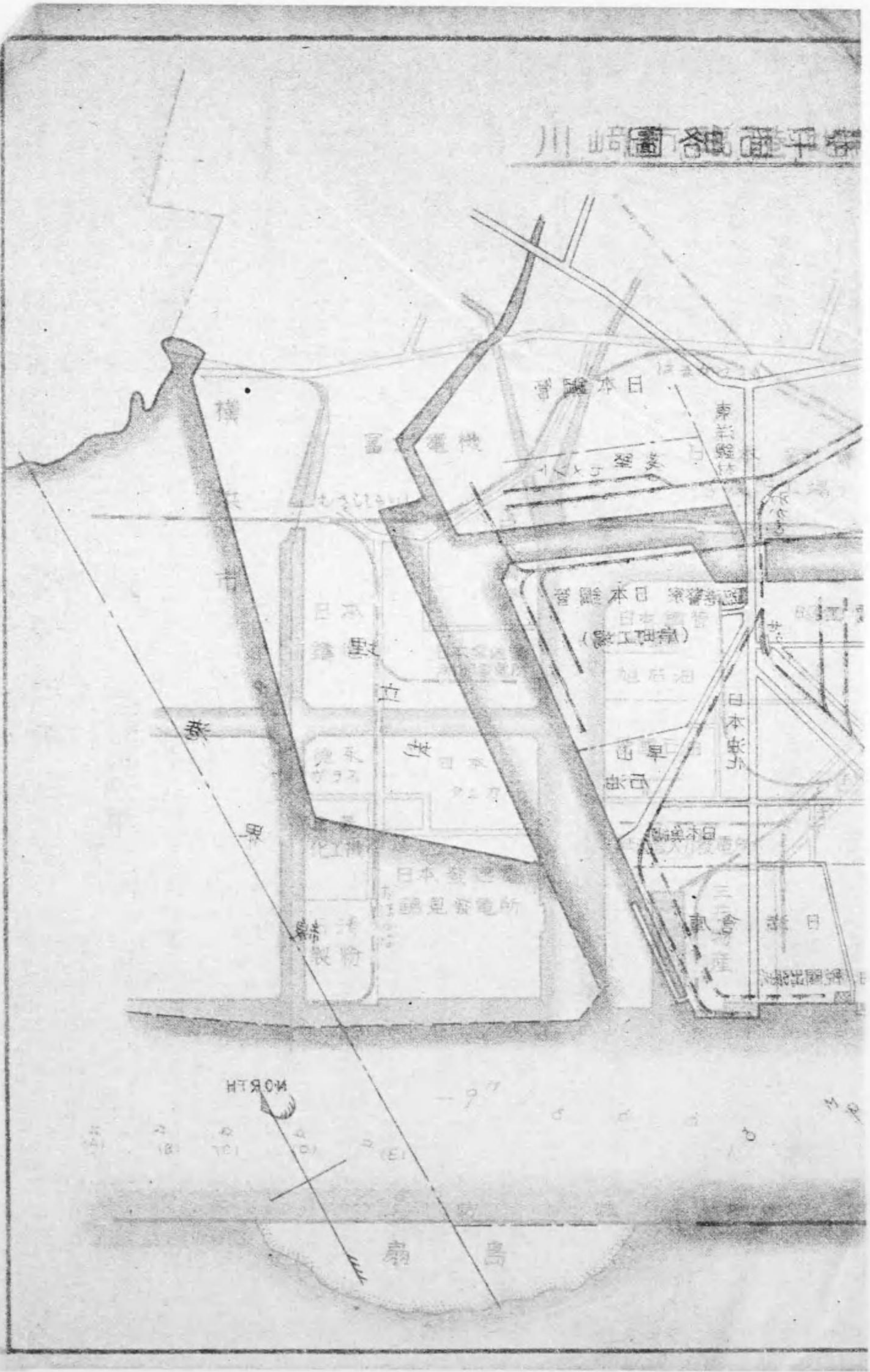


特256
26

川崎市臨港地帯平面略圖



☆ (A) ☆ (B) ☆ (C) ☆ (D) ☆ (E)



川崎市臨港地帯概要

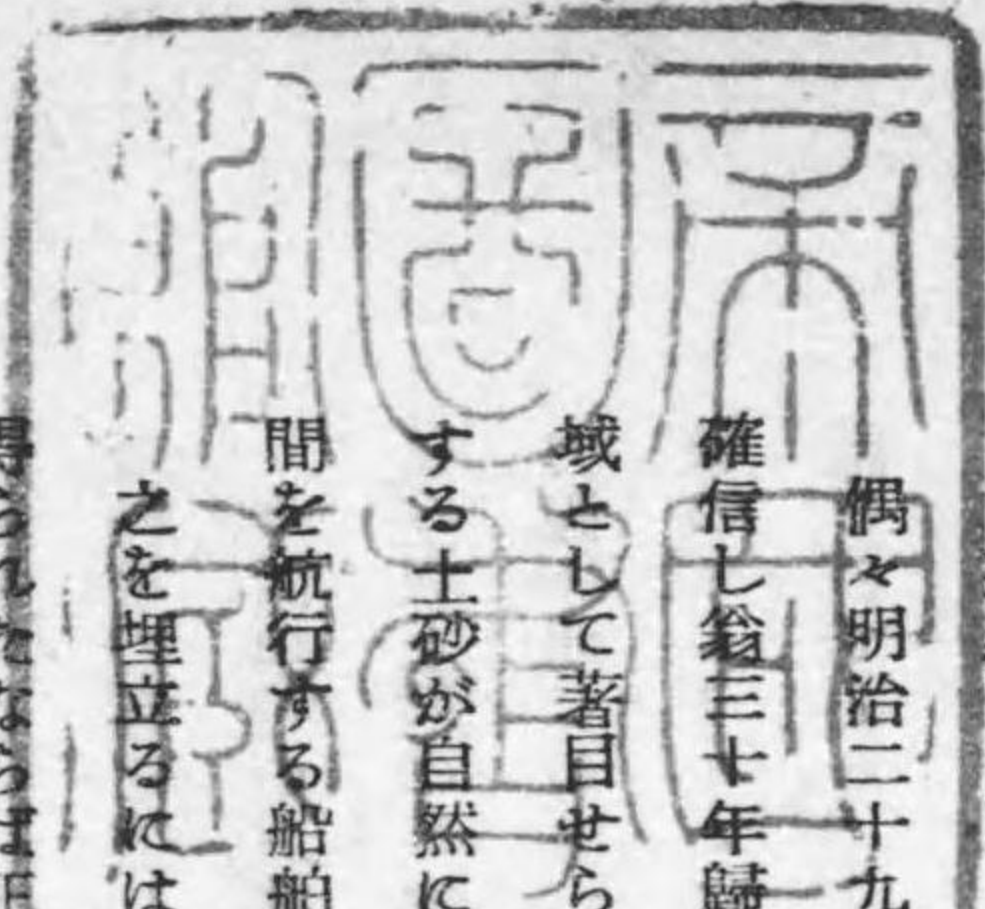
第一、川崎市臨港地帯の沿革

川崎臨港地帯成立の事情は先代淺野總一郎翁の慧敏なる洞察力と果斷なる実行力とに負ふ處洵に著大である。翁は夙に歐米諸國の港灣に關する文明的施設に比し我國の港灣設備が極めて貧弱なるを遺憾とせられ之が改良の急務なるを痛感して居られた。

偶々明治二十九年歐米諸國を巡遊し親しく彼地の優秀なる諸施設を目撃するに及び一層抱懐する信念の誤らざることを確信し翁三十年歸朝と同時に自ら率先し此の事業に當らむと決心せられたのである。翁が如上の理想の具現化に好適の地域として著目せられた處は横濱港より東京港に至る即ち本市海岸地帯である、この地域は幾星霜に涉つて六郷川が自然に堆積して成れる一帯の砂洲であつて、干潮時には一里餘の沖合まで露出する程の淺瀬であり、間を航行する船舶の最も難所とする處であつた。

之を埋立るとは海底の土砂を以すれば寔に容易であつて埋立地は工場用地として好適旁々前面には巨船を容るる錨地を得られたならば正に一石二鳥の妙案と言ふべく殊に之の地域は左右に東京横濱兩大都市を控へ東海道本線に沿ひ水陸運輸の便物資の供給人馬の集散も亦自由に得られて眞に理想的工業港灣地帯と確信せられた。翁は故安田善次郎翁と謀つて俱に草鞋履で實地調査を重ね遂に明治四十五年茲に一大工業港灣地帯の埋立事業に著手せられたのである。

爾來工事は順調に進捗し昭和三年當初の計畫たる百五十三萬坪の埋立事業の完了を見るや周圍に堅牢なる護岸を施し埋立地内には大小の運河を縦横に開鑿して曳船、舩船の航行を自由ならしめ埋立奥地の工場倉庫等と圓滑なる連絡を計ると共に前面護岸より五百九十三米(三百二十六間)を距てたる沖合に延長四千九米(三千二百六十間)一文字に防波堤を築い



て暴風雨時の風浪に備へ更に水深最大干潮面下約九米に浚渫して海上面積實に七十萬坪の一大錨地を設けて一萬噸級船舶の自由に入港岸壁或は工場に横付けし得られ如何なる風波にも安全に荷役し得られるやう港灣設備の萬全を期せられたのである。

翁は更にこの設備の完成と呼應して陸上運輸の利便を計る爲鐵道を敷設して東海道本線或は本市産業道路との連絡を完了して茲に全く所期の目的は達成せられたのである。

而して右諸工事の完了と共に本邦に於ける一流會社は競つて土地の買收を行ひ巨費を投じて埠頭とし或は工場として最新科學の粹を盡し最大機能を發揮する理想的設備を施して今に尙駭々として駐まる所を知らぬ躍進を續けてゐる。

今同地帯の三井日滿兩埠頭の蒼穹を劃切つて屹立する巨大な架橋式大起重機の逞しき轟音を耳にし更に日清製粉工場の真空吸上機の偉容を目のあたり仰ぐ時これ等世界最大の荷役諸設備がその全能力を發揮して活躍する壯觀さに工業日本の力強き明日の姿が展望し得られるのであると共に川崎市臨港地帯の脈搏の躍動する處其處に産業地帯のオアシス、工業地帯のエルサルムにも比すべき煌かしき相貌を觀取して無限の發展性と無言の啓示とに觸るゝこと一再ならざるものあるを識るのである。

第二、位 置

本港は港灣行政區上横濱港第四區域に屬し居るも事實上單獨にして東京港へ十湮横濱港へは指呼の間に在る。

北緯三十五度三十九分東經百三十九度四十六分に位し西は日清製粉鶴見工場地先より、北は六郷川下流に至る區間にし

て海岸工場地帯を背後とし東南は海中に埋築せる平行防波堤を望む、海上面積七十萬坪の本邦最大の人工海港である。

賑を極めつゝある次第である。

1、風

本港に於ける昨年中の恒風は全年を通じて北風で之れを四季別に見ると春期は北及北々東の風多く夏期は南及南々西の風となり秋期に至りて北々西に轉じて冬期は北風に歸してゐる。

2、潮 流

本港に注ぐ潮流は横濱港外防波堤の影響を受けつゝ主流が一部鶴見川沖合より防波堤内に注ぐものもあるも其の影響極めて微弱にして大部分は防波堤外を羽田方面に東流し六郷川沖合より逆流沿岸に添ふて西向し港内に注ぐものゝ如く見受けらる。

3、底 質

従つて港内に於て渦巻を生ずる事なく流速も亦極めて微弱にして船舶の航行及淀泊上何等の支障なきものと推意せらる港内の底質は大部分細砂貝殻混細泥に覆はれ粘着力強く錨泊に好適なるも各社に於て強馬力の曳船を所持してをる爲本船入港と同時に曳航して岸壁に繫留横付する關係上始と投錨の必要なき有様である。

4、潮 位

大正十三年より昭和八年まで滿十ヶ年間觀測の潮位は次表の如くである。

潮位圖表

M	高極潮位 + 3.06
	昭和六年十月十四日
M	朔望平均滿潮位 + 2.72
M	上下弦平均滿潮位 + 2.08
M	上下弦平均干潮位 + 1.92
M	平均潮位 + 1.80
M	陸軍地形圖零點 + 1.74
	靈岸島中等潮位 M.S.L
M	海圖零點 + 0.72
M	東京港零點 + 0.60
A. P	
M	神奈川縣及橫濱市零點 + 0.00
K. D. L	
M	朔望平均干潮位 + 0.80
	昭和三年一月九日
M	低極潮位 + 0.20

1、港内水面積及水深

別	面積	水深
防波堤内總面積	二、六九四、二一九	記載せず
岸壁防波堤内	二、一三八、八四六	記載せず
扇町、大川町間運河	二、三一、四〇五	記載せず
扇町、渡田間運河	二、二四、七九三	記載せず
大川町、白石町間運河	五、二、八九二	記載せず
市境界運河	四、六、二八一	記載せず

第三、現在の港灣設備

2、繫船設備 (岸壁、棧橋、繫船場)

名稱	區別	延長	水深	摘要
日本鋼管東海岸岸壁	岸壁	三五〇 (約米)		
三井物産雜貨岸壁	岸壁	三三〇		
三井物産石炭岸壁	岸壁	三九〇		
昭和電工棧橋	棧橋	一一〇		記載せず
昭和電工棧橋	棧橋	一八〇		記載せず
日滿倉庫雜貨棧橋	棧橋	二六〇		
日滿會庫石炭棧橋	棧橋	二九〇		
三菱石油棧橋	棧橋	一〇〇		
日清製粉海面棧橋	棧橋	一六〇		
早山石油繫船場	繫船場	一九〇		
旭石油繫船場	繫船場	八〇		
愛國石油繫船場	繫船場	一一〇		記載せず
鐵道省繫船場	繫船場	一二〇		記載せず
日本發送電鶴見發電所繫船場	繫船場	八〇		
日本發送電潮田發電所繫船場	繫船場	九〇		
日本タンカー繫船場	繫船場	一五〇		

3、荷役設備

種類	數	一時間最大能力	設備位置
電動式	一		日本發送電潮田發電所
電動式	二		日本發送電鶴見發電所
種類	一		
種類	二		

電動式
 同 上
 同 上
 同 上
 電動式吸揚機
 サツタロータ機
 早山石油、日本タンカー、三菱石油、旭石油の諸油槽所への荷役は船舶備付の「オシントンポンプ」による

五 記載せず
 三
 二
 二
 四

六
 日本鋼管製鐵工場
 三井物産川崎港務所
 鐵道省火力發電所
 日滿倉庫川崎埠頭
 日清製粉鶴見工場

4、船舶給水

市營に於ける船舶給水事業は、漸く其の端緒に就かんとしている現状で目下水道部では其の計畫樹立中である。
 現在行なはれ居る私設給水の状況と出入船舶數とを斟酌して本港に於ける所要水量の最少限度の概算を示せば左の通りである。

區別	所要水量一ヶ月平均		所要水量一ヶ年平均	
	飲水	罐水	飲水	罐水
計	二、一二二	五、六四三	二五、四六〇	六七、七〇五
		七、七六五		九三、一六五

第四、港勢

1、内外入港船舶隻數噸數及貨物噸數

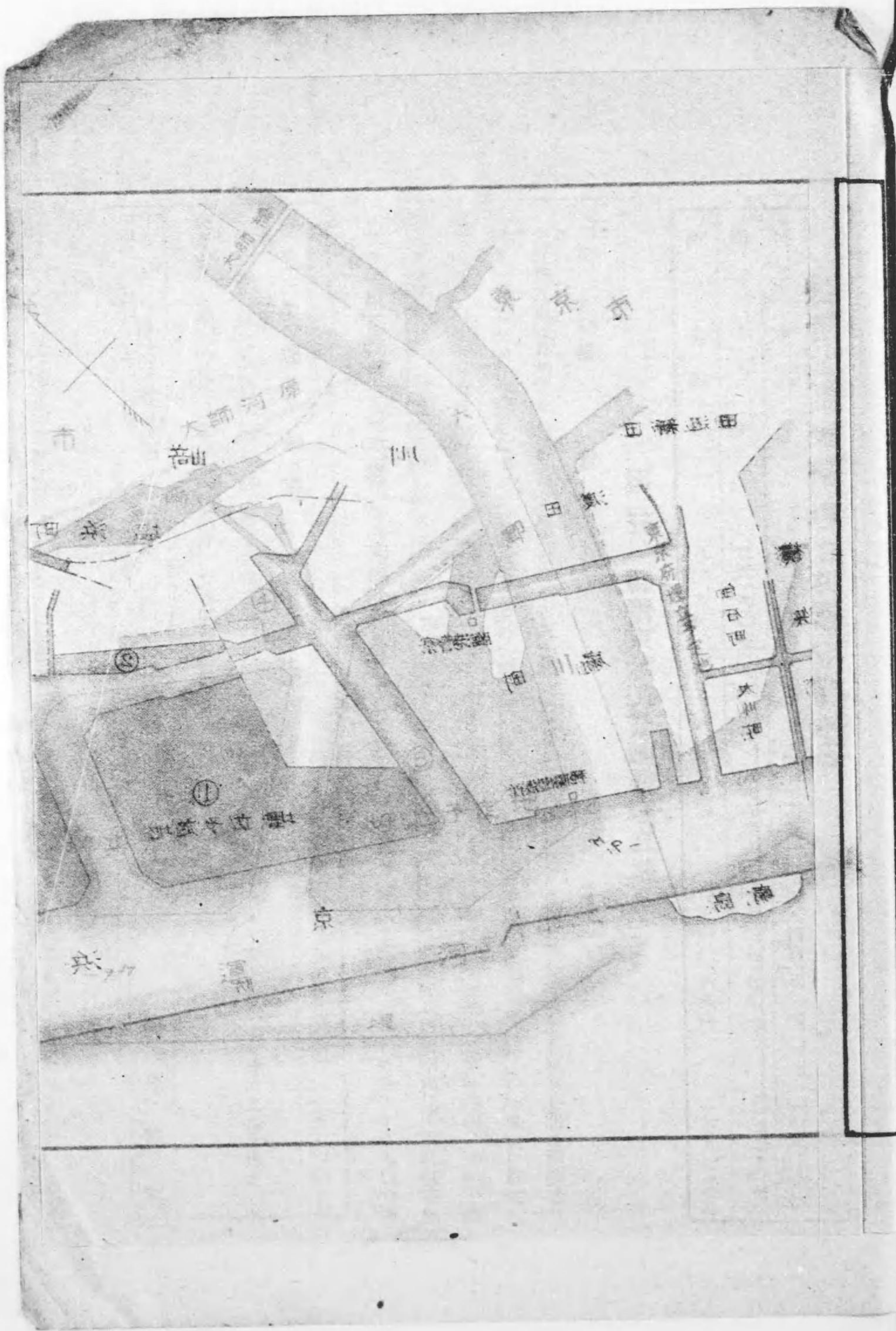
年次種別	隻數	船舶噸數	貨物噸數
昭和十年	一、三〇八	四、七九六、五四九	三、四二〇、九二七
同 十一年	一、三五九	四、六五五、六七一	三、六八一、〇四七
同 十二年	一、三三二	四、三〇一、〇七四	四、一八一、七三三
同 十三年	一、二八〇	四、六八二、二八三	四、五四〇、六四三
同 十四年	九九〇	三、九三〇、五〇五	三、七九三、九一一

2、外國貿易（入港船舶數及總噸數比較）

年次種別	隻數	總噸數	一月平均隻數	一月平均總噸數
昭和十年	五五二	二、六九七、〇六二	四六	二二四、七五五
同 十一年	四九二	二、三三三、〇三七	四一	一九四、四二〇
同 十二年	四二七	二、〇八五、二一八	三六	一七三、七六八
同 十三年	四〇〇	二、〇五五、八一六	三三	一七一、三一八
同 十四年	三六八	一、八〇九、一四三	三一	一五〇、七六二

3、外國貿易（輸出入貨物噸量比較）

年次種別	輸出噸量	輸入噸量	輸出入噸量	一月平均輸出入量
昭和十年	五五二	二、六九七、〇六二	四六	二二四、七五五
同 十一年	四九二	二、三三三、〇三七	四一	一九四、四二〇
同 十二年	四二七	二、〇八五、二一八	三六	一七三、七六八
同 十三年	四〇〇	二、〇五五、八一六	三三	一七一、三一八
同 十四年	三六八	一、八〇九、一四三	三一	一五〇、七六二



4、内國貿易 (入港船舶數及總噸數比較)

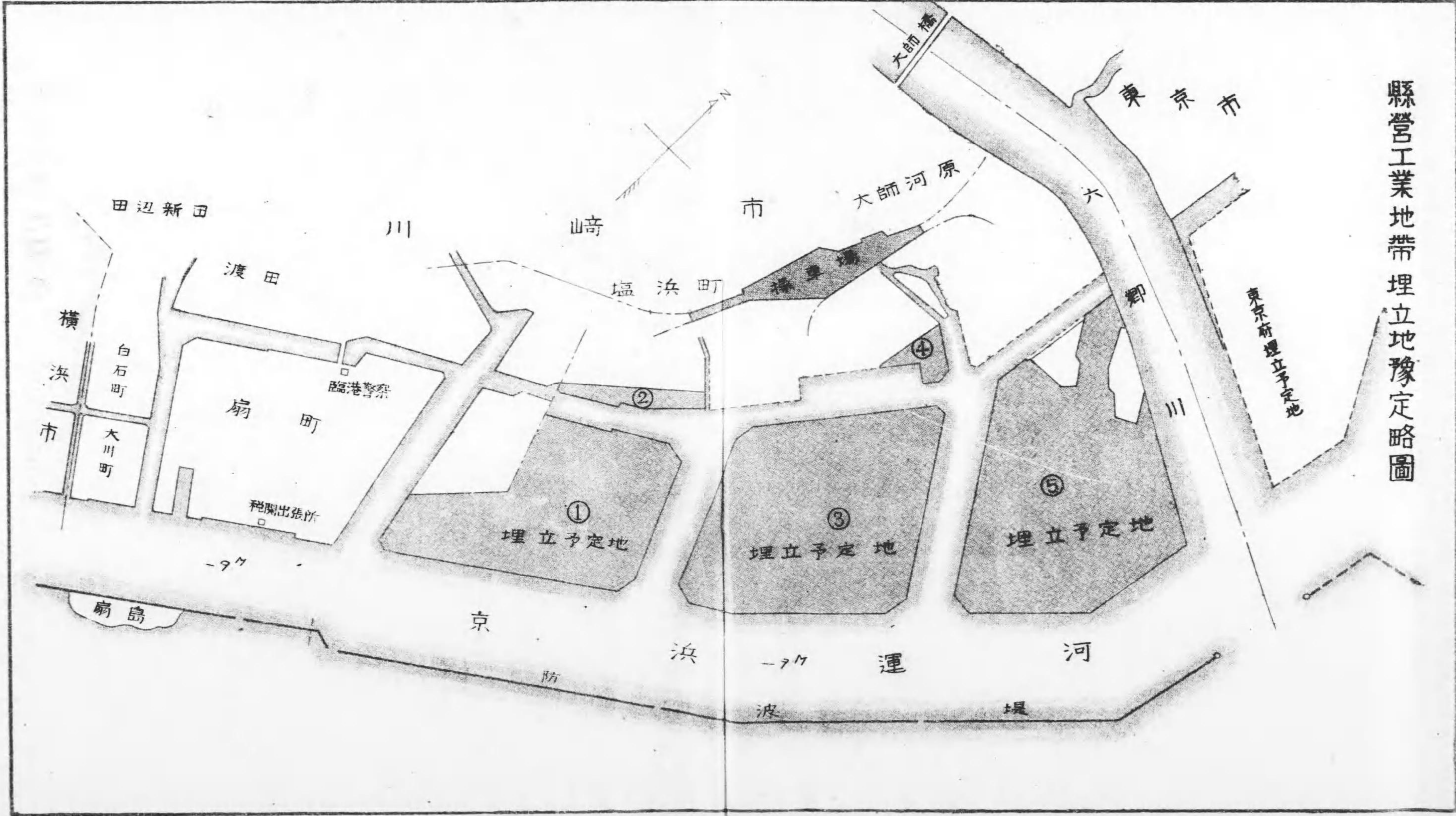
昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
一八六、三三一	一一五、八四四	一六二、五七八	二三五、二八一	二三六、五六八
一、六三八、三一九	一、六四九、四七一	一、八七二、三四三	一、八七七、五七一	一、六四六、六八九
一、八二四、六五一	一、七六五、三一五	二、〇三四、九二一	二、一一二、八五二	一、八八三、二五七
一五二、〇五四	一四七、一一〇	一六九、五七七	一七六、〇七一	一二三、六〇五

5、内國貿易 (移出入貨物噸量比較)

昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
七五六	八六六	九〇五	八八〇	六二二
二、〇九九、四八七	二、三二二、六三四	二、二一五、八五六	二、六二六、四六七	二、一二一、三六二
六三	七二	七五	七三	五二
一七四、九五七	一九三、五五三	一八四、六五五	二一八、八七二	一七六、七八〇

昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
一五〇、一三八	一、四四六、一三八	一、五九六、二七六	一、三三、〇二三	

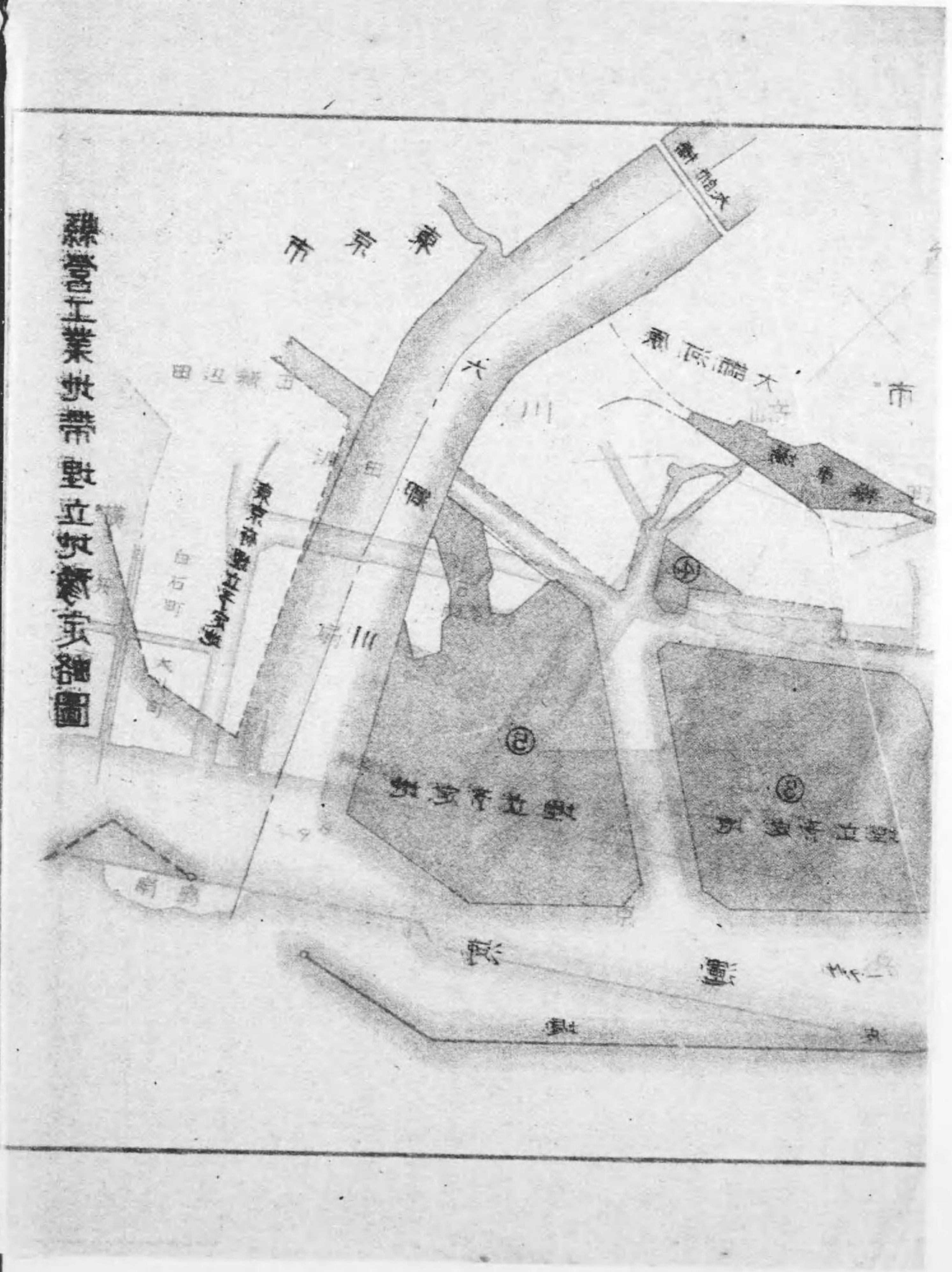
縣營工業地帶埋立地豫定略圖



5、内國貿易(移出入貨物噸量比較)

昭和	年次	種別	移出噸量	移入噸量	移出入噸量	一月平均移出入量
昭和	十年		一五〇、一三八	一、四四六、一三八	一、五九六、二七六	一三三、〇二三

同	十二年		九〇五	二、二一五、八五六	七五	一八四、六五五
同	十三年		八八〇	二、六二六、四六七	七三	二一八、八七二
同	十四年		六二二	二、二二一、三六二	五二	一七六、七八〇



同	十一年	一九二、八〇八	一、七二二、九二四	一、九一五、七三二	一五九、六四四
同	十二年	一七二、〇四七	一、九七四、七六五	二、一四六、八一二	一七八、九〇一
同	十三年	一二五、八〇六	二、三〇一、九八五	二、四二七、七九一	二〇二、三二六
同	十四年	八一、三一	一、八二九、三四三	一、九一〇、六五四	一五九、二二一

第五、縣營京濱工業地帯埋立地

1、緒言

縣營埋立地は京濱間本市大師河原地先の海面百五十萬坪の地域に施行せむとする計畫で即横濱港及東京港間に開設せらるべき一大工業港の中樞をなすものである即ち其の概要に就て述べれば沖合に五千八百七十米(堤頭共)の防波堤を新設し埋立地との間に一萬噸船舶の航行を自由ならしむる航路(所謂京濱運河)を始め水路の開設、船溜、公共物揚場、橋梁、鐵道、道路等を配備し、水陸連絡の便を全たからしめ、更に工業用水並電力の供給は別に計畫せる縣營相模川河水統制事業に依り、尙保健施設としては綠地、下水道等を設け實に本埋立地をして理想的大臨港工業地帯たらしめむとするものである。

2、埋立面積

埋立總面積一、五五五、四〇〇坪(内公共物揚場、稅關用地、綠地、道路、鐵道、操車場等の敷地を除く工場敷地として賣却すべき豫定面積一、二九一、四〇〇坪)で各區別内譯を擧ぐれば

地區別	埋立面積	賣却面積	竣功豫定
-----	------	------	------

第一區	三八六、〇三〇 ^坪	三一七、九七〇 ^坪	昭和十六年三月
第二區	三三、二六〇	二三、一四〇	昭和十五年三月
第三區	五四二、六八〇	四五六、二七〇	昭和十九年三月
第四區	二七、七一〇	一八、〇三〇	昭和十七年三月
第五區	五六六、七二〇	四七五、九九〇	昭和二十二年三月

3、埋立地の造成

施工基面は朝望平均満潮面上二米とし粘土交り硬質細砂を浚渫して埋立を爲すのであるから其の硬化に日數を要することなく直に強靱な地盤を構成し工場敷地として最も適當である。又護岸は工業用地として適當なる工法に依り鐵筋コンクリート扶壁体或は支柱式土留版を以てし永久的構造とするものである。

尙各區埋立の竣功と同時に防波堤、航路、水路、道路、鐵道等水陸連絡施設を始め其他必要なる施設を併行完備せしむる計畫である。

4、水陸連絡施設

(1) 道路

幹線は埋立地内公共物揚場を連繫して各地區を縦貫する三線の動脈幹線に集約せられて産業道路に達し京濱國道に連結し而して之等幹線は幅員二十五米歩車道を區別し鋪裝を施し歩道にして街路樹を植込み街路燈を設くる等近代設備をなさんとするものである。

(ロ) 貨物線

幹線は各地區の中央に配置し將來支線、側線の敷設を容易ならしめ埋立地後方には大操車場を設置し列車の編成を行ひ省線濱川崎驛に連絡する計畫である。

(ハ) 航路、水路及船溜

航路は鶴見川崎工業地帯の既設航路を経て横濱港と連絡し全幅員七百米、水深朝望平均干潮面下九米(以下單に水深と記す)て船廻場を有せしめ壹萬噸級船舶の航行繫留を自由ならしめ水路は各地區を區劃し幅員は百三十米乃至二百八十米とし水深三米五乃至九米を有せしめ且水面積五萬坪水深三米にして公共物揚場を有する船溜に連絡せしめて圓滑なる水陸の連絡を計らむとする計畫である。

(ニ) 公共物揚場

物揚場は上述の百三十米水路に面する船溜周壁を始めとし航路に面する適當なる箇所を設置せんとするものである。

401
355

昭和十五年三月三十日印刷
昭和十五年四月廿日發行

編輯
行人兼

川崎市工場港灣課

川崎市堀之内二番地

印刷人 土屋二郎

終

